

## 事業の背景・目的

市内には多数の谷戸や湧水が存在し、豊かな自然環境を形成していることから、様々な種類の動植物の生息・生育場所となっている。ところが、アライグマ等によってトウキョウサンショウウオが捕食されるなど、在来種への影響が深刻化している。植物についても、オオキンケイギク、アレチウリなどの分布拡大が問題となっている。このことから、都内屈指の多様性を誇る生態系のバランスを維持するため、外来種対策を推進している。

## 事業の内容

### 事業① 防除事業

市民からのアライグマによる被害相談、目撃情報をもとに駆除（自己負担による事業）を行い、GISを用いて分布状況等についての情報を集約（マップ化）、分析を行った。

### 事業② 生息状況調査事業

当市はアライグマの繁殖地となっていると思われることから、これまでと時期を変更し、繁殖期・生育期である夏場を実施をし、効果的な防除に資する情報を収集した。また、社寺への潜り込みにより繁殖している事例もあることから、社寺における調査を実施した。植物については、「青梅の森」において、オオキンケイギクを主とした生息状況調査を行い、調査結果に基づき、周辺の外来種防除を実施した。

### 事業③ 普及啓発事業

広報紙、ホームページ、ケーブルテレビによる周知の他、GISを用いた捕獲実績のマップをチラシとして作成し、市民への啓発に活用した。

## 得られた成果

防除事業：84件の駆除作業を実施し、43頭のアライグマを捕獲した。（自己負担による事業）

生息状況調査事業：センサーカメラと捕獲器設置により生息の有無を確認し、9頭のアライグマを捕獲した。特別緑地保全地区では外来植物等の同定・駆除を行った。オオキンケイギクについては2株確認でき、周辺の外来種防除を実施した。

今後も捕獲実績を積み上げ、調査も継続するとともに、専門家の指導・助言を仰ぎながら効果的な防除を検証することで、生態系への影響や被害を最小限に抑えていく。また、公開型GISの活用により、捕獲地点情報を市民と共有し、目撃情報、捕獲頭数の多い地域に対して、積極的に周知、防除を実施する。